

YAH!



11月は『シクラメン』

You Ain't Heard Nothin' Yet ! ヤー!

Vol.42 2022.11.10 えんじょい工房・『YAH!』編集室

目くらましにもならない

断水に苦しみ、給水を待つ行列を横目に、大きなイベントを強行し、何かが西から飛んできた、いたずらに？不安を煽り、事の優先順位の認定を操作しようとしている…としか思えない状況、腑に落ちないことばかりだ。まるで、現場を見つても別の何かを重要視する姿勢にはあきれられるばかり、いったい何処を、何を見て日々を過ごしているのかと余計な勘繰りもしてみたくもなる。

いう事やる事は、概ねピント外れ、とにかく“ずれている”ように見えてしかたないのだ。それでも、何も変わらないのだから。時をやり過ぎして、人は忘れ、或いは忘れたふりをせざるを得ない事態の中で、現状を肯定してしまう…これは善循環なのか悪なのか、その判断すらも有耶無耶になって、虚しさだけがあとに残る、悲劇であり、喜劇でもある。ただ何とも情けないことだけは確かだと思ふのである。誤魔化しと、言い逃れ、更に逃げ隠れ…そんな人を馬鹿にしななくても…と言いたくもなる。



【こんな歌を聴いてきた】

エレイン

作詞・曲・歌 中島みゆき

風にとけていったおまえが残していったものといえは
おそらく誰も着そうにもない
安い生地ドレスが鞆にひとつと
みんなたぶん一晩で忘れたと思う
ような悪い噂
どこにもおまえを知っていたと
口に出せない奴らが流す悪口
みんなおまえを忘れて忘れようとして
幾月流れて
突然なにも知らぬ子供が
ひき出しの裏からなにかをみつける
それはおまえの生まれたる国の金に替
えたわずかなあぶく銭
その時 口を聞かぬおまえの淋しさが
突然私にも聞こえる
エレイン 生きていてもいいですか
と 誰も問いた
エレイン その答を誰もが知っている
から 誰も問えない

当時（昭和五〇年頃か）、あまりに内容のドラマチック性からかえって話題にならなかったか、ヒットしたような記憶はないが、文句なく“昭和の名曲”である…と思っている。実話をもとにした歌だという人もいるけれど、ともかくにも全篇胸に刺さる歌詞なのである。

名曲だとは思いますが、とても長く聴いてはいられない、飽きるということでは決してない、どうにも辛いのである。もうどこへも行けない、悲しみも怒りもなく、ただ肩を落として立ち尽くすのみだ。

【今月の花 十一・霜月】

シクラメン

内気とか清纯の花言葉を持つ反面、疑念嫉妬というものもあり、しっかり？毒性も有しているらしい。どこまでもミスリアスな花である。

【こんな映画を観てきた】

『ヘア』 HAIR

—1978/米 監督:ミロス・フォアマン

流れ流れて取り返しがつかなくなる前に何とかしたい、しなければならない。信念とまでは言わずとも、冷静な批判と判断のための意識がないと、世の中全くもってバランスを逸してしまうことにもなりかねない。大きな声にも怯まず、しらけず、あからさまな“反抗”は“思う壺”で、かえってある種の“口実”を与えてしまうことにもなりかねないが、それでも何か策なり、まだ“て”はあるはずだし、寡黙は許されるとして、決して目を瞑ったり、ましてやあきらめるべきではないだろう。戸惑いの微笑みの中で、運命に身を委ねるとするのは、あまりにも過酷で無慈悲なことではないだろうか。